資料3-2 各医療機関の外来医療機能について

医療機関名	地域医療支援病院（地） 紹介受診重点医療機関（紹）	地域医療構想を踏まえた病院の 外来機能・地域における役割について	重点外来の主な内容について（紹介受診重点医療機関のみ）
淡海医療センター	地 紹	**＜病床数とその病床機能の内訳＞** 淡海医療センターは、高度急性期（ICU8床・HCU8床）、急性期346床、回復期58床 計420床で認可を得ている。 **＜地域における役割＞** 湖南圏域での二次救急医療機関として（断らない救急の徹底、湖南大津消防との強固な連携、救急医療管理加算の積極的な算定）を指標とし地域における役割を果たしている。急性期医療として開業医との連携強化を図り外来機能を担っている。	**＜外来機能報告結果＞** 令和4年・令和5年・令和6年の外来機能報告において、本院は紹介受診重点外来の基準を充足している。（別紙参照） 紹介・逆紹介先現状として、半径5キロ圏域の紹介が集中、逆紹介の件数には入院につながっていない医療機関先を中心に診療科・疾患別に医師対応を行っている。 **＜紹介重点医療機関における役割＞** 急性期体制充実加算1を算定しており、特に悪性腫瘍手術、腹腔鏡下手術、心臓カテーテル法による手術、消化器内視鏡手術、化学療法は湖南圏域においてクリアしており、がん拠点病院も取得している（院内がん登録・手術件数・薬物療法・放射線療法・緩和ケア・相談支援センター等）。 消化器外科・腹膜播種センター、頭頸部甲状腺外科センター等など専門外来はじめ地域医療における高度急性期医療を担っている。医療DXが進んでおり、令和ビジョン2030は電子処方箋や救急時カルテ閲覧機能導入など先行して遂行している。
淡海ふれあい病院	紹	**＜多機能を有する在宅療養支援病院、透析治療の拠点・地域の関係機関との連携＞** 淡海ふれあい病院は、一般100床、療養99床の計199床で認可を得ている。じん臓病ケア総合センター2020年から開設し滋賀県における透析治療の一大拠点として展開。在宅療養支援病院しての役割は急性期病院との連携、ポストアキュート機能、かかりつけ医との連携、サブアキュート機能、開放型やサポートカーの運営、地域住民との連携、レスパイト入院、地域包括支援センター・ケアマネ・在宅医療介護連携等はじめ地域における役割を果たしている。 **＜主な外来機能＞** 外来機能においては、患者増を見据え、診療体制の基軸として外来診療体制強化、じん臓病ケア総合センター・地域包括ケア病棟につながる外来、在宅医療をチームとして推進するための外来機能を担っている。	**＜紹介受診重点医療機関としての役割・医療DXの推進＞** 令和4年・令和5年・令和6年度の外来機能報告において、本院は紹介重点医療機関のひとつであり、紹介受診重点外来の基準は別紙のとおり満たしている。（別紙参照） 紹介受診重点医療機関としての役割として、かかりつけ医・開業医との連携を図っている。またふれあい病院と協定書を締結している機関へのアプローチと更なる開拓を図っている。 2024年4月開設の在宅療養支援センターは、①在宅診療 ②在宅歯科診療 ③訪問看護ステーション ④訪問リハビリステーションの4体制を担っていく。 医療DXへの推進としてマイナンバー・電子処方箋導入や生成AIの導入など地域医療の質を高め、患者に寄り添った医療提供を図っていく。
近江草津徳洲会病院	-	**＜専門性と多様な診療科目の提供＞** 内科、外科、整形外科などの幅広い診療科を備え、専門的な医療を提供します。 MRI、CT、PET-CT、内視鏡検査などの専門的な検査設備を活用して、検査や画像診断の提供しております。 **＜かかりつけ機能としての対応＞** 地域住民が健康上の問題を感じた際、初めに訪れる医療機関として機能します。 風邪や軽い怪我などの一般的な疾患から、専門的な診断が必要な場合の入口として、住民の健康ニーズに応えます。 **＜地域医療連携のハブ＞** 地域の診療所やクリニックからの紹介患者を受け入れることで、より専門的な検査や治療を提供します。また、治療後のフォローアップをかかりつけ医に引き継ぐ役割を担います。高度医療機関との橋渡しとして、必要に応じ、さらに高度な治療を提供する大規模病院への紹介窓口としても機能します。	PET-CT,CT,MRI等の検査対応や外来化学療法,内視鏡検査,内視鏡下手術の対応
南草津病院	-	**＜通院リハビリ・在宅生活の支援＞** 当院は全床回復期リハビリへの病床転換をめざしており、外来部門でもリハビリを中心とした医療提供を継続していきます。回復期退院後に社会復帰や在宅復帰されますが、経過とともに動作能力の低下するケースもみられ、後遺症を抱えたまま不便のある生活を余儀なくされる場合も少なくありません。当院では今まで以上にシームレスなリハビリ提供が行える体制を整える予定です。外来については通院リハビリ枠の拡充を図り、可能な限りニーズに対応できるようにします。継続的に充実したリハビリを提供することで、安定した社会生活が長期間維持できるよう貢献したいと考えます。 また、骨折はもとより、脳血管障害においても高齢化が目立っており、重度の後遺症を残したまま在宅生活を送る高齢者も少なくありません。訪問リハビリは現在神経難病を含め40－50件行っていますが、スタッフの増員を図り対象件数を増やす予定です。高齢者の動作能力の維持や介助量軽減をめざして、少しでも安心できる在宅生活が送れるようにサポートしていきたいと思います。	-

資料3-2 各医療機関の外来医療機能について

医療機関名	地域医療支援病院（地） 紹介受診重点医療機関（紹）	地域医療構想を踏まえた病院の 外来機能・地域における役割について	重点外来の主な内容について（紹介受診重点医療機関のみ）
済生会 滋賀県病院	地 紹	**＜PFM（Patient Flow Management）の強化＞** 当院は、救命救急センターを併設し高度な機能を持つ病院として専ら重症者に対する診療を行っており、病床機能報告において、高度急性期・急性期病院を選択している。 新入院患者が年々増加しており、限られた病床で対応するために、地域連携やパスの強化、また、患者支援センターを中心に外来から入院、さらに退院を見据えた支援を強化しPFMを推進することで短い在院日数を維持しながら高い稼働率を実現している。その結果、DPC特定病院群にも指定された。 当院は、紹介患者、救急搬送患者や入院患者数増加に伴い、紹介受診重点医療機関の指定要件である「医療資源を重点的に活用する入院前後の外来」、「高額医療機器を必要とする外来」、「紹介患者に対する外来等」の件数も増加している。 滋賀県の保健医療計画の資料によれば、湖南地域では引き続き人口が増加する。特に、75歳以上の高齢者は今後急激に増加し、今後も高度急性期・急性期の医療需要は増加するとされている。よって、当地域では紹介受診重点外来の対象患者のさらなる増加が見込まれる。 当院は、このような状況に対応するため、外来化学療法や日帰り手術とPFMのさらなる強化を図ることとし、現在、新外来棟の建設を開始し、外来化学療法センター、内視鏡センター、および入退院支援センターの機能拡充を進めているところである。	**＜重点外来の各領域の割合＞** 当院では、高額等の医療機器・設備を必要とする外来が多い。特に検査（エコー）、画像診断（CT、MRI）や外来化学療法、外来手術（短期滞在手術等基本料1の対象手術を含む）のための外来が多い。また、透析センターを有しているため、透析のための外来も多い。 次に医療資源を重点的に活用する入院前後の外来が多く、特に麻酔科管理を行う手術が必要な入院の前後の外来が多い。 令和5年度の外来機能報告では、当院の重点外来の初診の割合が他施設より低いが、これは救急搬送患者を100%応需していることと365日小児科輪番を担当していることなどから、地域の政策的な役割として軽症患者も一定数対応していることが影響していると考える。
滋賀県立 総合病院	地 紹	**＜地域の関係機関との連携・小児領域への対応＞** 地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院の指定を受けており、紹介患者に対する医療提供、救急医療の提供、専門的ながん医療の提供等の役割を担っている。主な取り組みとして、診療所への訪問、連携登録医満足度調査、近隣病院との意見交換等を行っており、地域の医師会や回復期型病院と連携を深めている。その結果、紹介率、逆紹介率は年々改善している。 令和7年1月に滋賀県立小児保健医療センターと統合し、これまで小児保健医療センターで行ってきた重症心身障害児・者や小児難治・慢性疾患への医療を継続しつつ、近い将来、小児救急への対応も強化したい。	**＜重点外来の各領域の割合＞** 初診では、「特定の領域に特化した機能を有する外来」の割合が55%と最も高い。「高額等の医療機器・設備を必要とする外来」の割合は41%、「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」の割合は8%となっている。重点外来の内訳はCT撮影、MRI撮影、マンモグラフィ等の画像診断を実施している。 再診では、「高額等の医療機器・設備を必要とする外来」の割合が20%と最も高い。「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」の割合は12%、「特定の領域に特化した機能を有する外来」の割合は3%となっている。重点外来の内訳は画像診断に加え、化学療法、放射線治療、悪性腫瘍手術前後の外来を実施している。
済生会守山 市民病院	-	地域の皆様に安心して受診いただきやすい病院であるとともに、病院の医療機器を活かした検査及び診療を行い、更に紹介患者を受け入れる事が出来る病院を目指します。 上記に伴い、医療機器の整備及び診療の体制の確保を計画的に進めていく方針です。	-
市立野洲病院	紹	**＜かかりつけ医機能・在宅医療の支援＞** 今後、市内で増加していく高齢者について、在宅療養支援病院として「かかりつけ医」機能を発揮し、1日250名程度の外来受診に対応している。一方、地域の在宅医療の後方支援も併せて行い、地域の診療所からの紹介についても応じている。 地域で需要の大きい整形外科については、滋賀医科大学との共同研究（骨粗しょう症、脊椎）に取り組み、特に骨粗しょう症外来やリハビリテーションにおいて地域のニーズに応じている。 二次救急に対応する救急告示病院として、24時間対応の救急外来を実施しており、時間外の診察依頼についても対応している。 80列マルチスライスCT及び3テスラMRIを導入していることから、地域の診療所からの紹介が多く、常勤の放射線科医を中心にすみやかに読影を行い、報告書を作成し、画像診断の分野で地域医療に寄与している。	・CT撮影 ・MRI撮影 ・マンモグラフィ検査